

上厚真小3年生が 防災マップづくり



危険箇所を確認しながら散策する児童たち

上厚真小学校の3年生15人が11月8日、上厚真自治会（國本公彦自治会長）と一緒に防災学習に取り組み、地域を歩いて防災マップづくりに励みました。

3年生は、総合的な学習や社会科の学習でこれまで地域の安全を守る仕事を学んできました。今回は、自分たちが生活している地域を歩いてどのような危険が潜んでいるのかを把握し、有事の際に役立つ防災マップ作りに挑み、自主防災活動が盛んな同自治会が全面的に協力しました。

2グループに分かれた児童たちは、大人とペアを組んで厚南会館の北側と南側を散策しました。垣根が死角となっている交差点や道路の段差など、「危ない」と感じた場所を把握し、地図に書き込みました。

厚真市街地の沿道で 冬型事故防止など呼びかけ

冬の交通安全運動（11月13日～22日）にちなんだ町交通安全推進委員会主催の街頭啓発が11月12日、厚真市街地で行われました。

町内の事業所や団体など約100人が参加しました。交通安全指導車のスピーカーを通じて、交通弱者の安全確保やスリップなど冬型事故防止、飲酒運転の根絶などのメッセージを繰り返して流し、交通安全を呼びかけました。



厚真市街地の交差点で交通安全を呼びかける参加者たち

吉野地区に桜の苗木30本植樹 公益財団法人イオン環境財団



吉野地区に桜の苗木を植える参加者たち

町と公益財団法人イオン環境財団は11月13日、吉野地区の斜面に桜の苗木30本を植樹しました。

植樹には、町長や議長、吉野・高丘・富里の3自治会長、同財団の山本百合子専務理事らが参加しました。設立30周年を迎えた同財団が、3年かけて全国で30万本の桜を植樹する活動の一貫として行われました。

品種は、エゾヤマザクラとヤエザクラの2種類。参加者は、満開の桜を想像しながら、丁寧に土をかぶせました。宮坂町長は「今年度で林道復旧も終わり、来年度から森林再生の新たな一歩を踏み出します。環境財団の方たちのご協力に感謝します」と話し、山本専務理事は「これからも吉野地区をはじめ、多面的な活動を行いたい」と語りました。また、植樹の前に、町から環境財団に感謝状が贈られました。

厚真ダム近くの高台で落水式

町土地改良区（細川隆雄理事長）は10月19日、厚真ダム近くの高台にある水神宮で落水式を行い、出席者約30人が出来秋に感謝しました。

土地改良区の役員や町長、議長、胆振農業事務所長などが出席しました。猛暑による作物への高温障害が懸念されましたが、肥培管理の徹底などで豊作に恵まれました。周辺の紅葉も深まり、昨年植樹したエゾヤマザクラも順調に生育していて、出席者は感慨深げに今年の営農を振り返りました。



出来秋に感謝する関係者たち

ケイセイマサキ建設株式会社が 宮の森こども園の園庭整備



安全な遊び場づくりに協力した
ケイセイマサキ建設の社員たち

ケイセイマサキ建設株式会社（正木健太社長）は10月20日、宮の森こども園（宮下葉子園長）の園庭で、園児が安心して遊べる環境づくりに奉仕しました。

園庭は、園児たちが遊びを通じて成長するための大切な学習の場。築山などが整備されていますが、さらに粒子の細かい土を敷き詰めて安全性を高めようと、同園がトラック6台分の土を購入し、同社が整地を協力しました。正木社長は「ブランコなどの下は、園児が飛び降りてもけがをしないように土などを厚めにしました。元気に遊んでもらえます」と語りました。

厚真町介護保険運営協議会を退任する 2人に町が感謝状

町は11月5日、厚真町介護保険運営協議会委員を退任する河口富士雄さんと館山睿さんに感謝状を贈りました。

河口さんは平成12年から通算6期18年、館山さんは平成28年から2期6年、それぞれ福祉行政に尽力しました。河口さんに代わって妻の紀久江さんと館山さんが宮坂町長から感謝状を受け取ると、2人は賞状を見ながら何度もお礼の言葉を述べました。



感謝状を手に記念撮影する
河口さんの妻紀久江さんと館山さん